

なぎさ NEWS



「西なぎさ」のトラフグに注目!

葛西臨海水族園では2ヶ月に1度、小型の地曳網を用いて「西なぎさ」で調査を行っています。6月14日に行われた調査では、前回4月の調査でも見られたマハゼやエドハゼなどのハゼのなかまや、ボラなどさまざまな魚種の稚魚が多く採集されました。その中でとくに目をひいたのが、風船のように丸く膨らんでいたトラフグの稚魚です。トラフグは高級食用魚としておなじみの魚ですが、実は、「西なぎさ」でトラフグが確認されるようになったのは、最近のことです。これまで、ほかのフグのなかまが採集されたことはありましたが、トラフグは2014年に初めて採集されてから、2015年をのぞいて毎年採集されています。なぜ急にトラフグが採集されるようになったのか、まだ詳しくはわかりませんが、どうやら東京湾内で繁殖している可能性があることがわかってきました。近い将来、江戸前のトラフグが普通に流通するようになるかもしれません。今後も「西なぎさ」のトラフグの動向に注目しつつ、地曳網調査を続けていきたいと思っています。



(飼育展示係 佐藤 真心) 小さくても立派に膨らんだトラフグ

コメツキガニの恋ダンス?



コメツキガニ求愛中

6月も「西なぎさ」で生き物調査を行いました。調査を行った日は天気もよく、干潟ではコメツキガニが活発に活動していました。

とくに今の時期には名前のとおり「米つき*」をするように、はさみ脚を上下にふるしぐさが見られます。実はこのしぐさはオスからメスへの求愛行動なのです。初夏から夏にかけてはコメツキガニの繁殖シーズンで、求愛行動がよく観察できます。観察を続けていると求愛行動中のオスの近くに、1匹のメスと思われる個体が出てきました。しばらくはオスの近くを動きまわっていましたが、その後、オスの巣穴に入っていました。求愛が成功したのでしょうか。まもなく、巣穴の出入り口は砂の塊で閉じられてしまいました。オスがはさみ脚を上下にふる動きは同じですが、スピードやタイミングなどは個体によって少しずつ違います。この行動のどこを見てペアとなるオスを選んでいるのかわかりませんが、メスにとって魅力的に見えるポイントがどこにあるのでしょうか。今年の夏は「西なぎさ」で、そんなコメツキガニの恋ダンスをじっくり観察してみたいかたはどうかでしょうか?

* 昔の精米(玄米から米ぬかをとること)の方法

(教育普及係 西村 大樹)

なぎさ 生き物ミニ情報

水族園は「西なぎさ」と「東なぎさ」で、さまざまな調査を行っています。今回は、6月に行った地曳網調査と生き物調査の結果をお伝えします。

いよいよ本格的な夏がやってきました。陸上だけでなく、干潟にくらす生き物たちにとっても、暑くて過酷な時期です。

6月地曳網調査: 気温 23.5℃、水温 23.0℃。6月の地曳網調査は、暖かな気候の中で行われました。調査では春に見られたエドハゼやマハゼなど、ハゼのなかまの稚魚が多く見られ、前回よりも大きく成長していました。また、今年もトラフグの稚魚が採集されました。

6月生き物調査: 気温 27.5℃、水温 23.1℃。コメツキガニ、オサガニやヤマトオサガニが活発に活動していました。干潟のカニたちが繁殖シーズンを迎える時期ですが、まだ、抱卵しているメスの個体は確認できませんでした。次回の調査でも調べてみたいと思います。6月下旬からの猛暑が、カニたちにどのように影響するのか少し心配です。